

もっと若葉台

第1回

「あひるの墓」

若葉台のソフトボール愛好家やジョガーにはお馴染みの若葉台遊水池。数羽のアヒルが、毎週の熱戦や老若のジョギング・ウォーキングを見守っている。ちなみに遊水池1週は約700mだ。桜は約250本。

アヒルは漢字で家鴨と書き、野生のカモを食用に家禽に改良し、食肉や卵が利用されてきたと云う。アジアが発祥の地とされている。ヨーロッパでも紀元

前に飼育がされていたようだ。寿命は判らないが、ニワトリを見てもそれほど長くは無いのだろう。北京ダックは皆さんもご賞味の経験がお有りか。

遊水池の南側に、この墓がひっそりと鎮座している。誰が建てたのかは知れないが、心優しい方が居るのでしょう。あるいは定期的に頂戴した人が供養の為に……。いやいや理由の詮索は止しましょう。遊水池の傍らに、あひるの墓が有る。それだけで団地住まいにも、ほっと一息つけるではないですか。



遊水池南側のおはか